

平成30年7月

特別名勝二条城二之丸庭園について

特別名勝二条城二之丸庭園と国宝二条城二之丸御殿は、築造当時の近世城郭の庭園と建物を一体としてのこす、わが国で唯一の文化財です。特別名勝は国宝と同格ですので、二条城二之丸の庭園と御殿は文化財として二重の最高評価を受けていることとなります。

文化庁（国）は平成30年7月1日現在で410件の名勝を指定しています。特別名勝はその1割にも満たない36件であり、その希少性が明らかです。そのうち同一の市町村あるいは東京都区の中で複数の特別名勝が所在するのは、東京都文京区の2件（特別史跡特別名勝小石川後樂園、特別名勝六義園）と奈良県奈良市の2件（特別史跡及び特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園、特別名勝平城宮東院庭園）そして本市の12件です。全ての特別名勝のうち、3分の1以上を占める本市の特別名勝の指定件数は群を抜いています。

近世城郭は、明治期にその数多くが破却されるとともに、第2次世界大戦で空襲の標的にされるなどして相当数が壊滅しました。全国400件余りにのぼる近世城郭跡のうち庭園が残存する事例は、遺跡を整備したものを除くと、名勝名古屋城二ノ丸庭園、特別名勝二条城二之丸庭園、名勝和歌山城西之丸庭園（紅葉溪庭園）そして名勝旧徳島城表御殿庭園の4件のみです。

つまり歴史小説や映画、ドラマに登場する近世城郭の庭園と御殿が揃って現代に継承されているのは、明治期の破却と戦災を奇跡的に免れた二条城二之丸の庭園と御殿だけなのです。

今回、この貴重な二之丸庭園を夜間公開するに当たっては、照明の設置にあたって、庭園の築山や石などがき損しないよう、慎重に位置を決め、設置箇所は十分に養生を施しています。

また、庭園に対する照明については、単に築山や石、庭木をきらびやかに照射するのはなく、来訪者の方々が照明を通じて自然と庭の見方に導かれることを意図して、その設置位置を工夫してまいりました。それは、来訪者の歩みにしたがって視点が変化するように仕向けた、庭の造り手の意図に想像をめぐらせながら設定しました。

一例を挙げますと、唐門より二之丸御殿の区画に入場し、左手の庭門より二之丸庭園の敷地に入ると、まず、行灯が並ぶ園路の奥に、大広間と黒書院が並んで見えます。その灯りに導かれて奥に進みますと、正面に見える大きな松の大木でその奥側への視野が遮られ、視線は自然と左手へと転じます。すると池中に浮かんだ岩島、石橋、築山上に並んだ景石の連続した景が目に入り、その池面にはもみじと桜の枝振りが写り込んでいます。石橋の奥には、にぶく築山を照らす光が浮かび上がり、そこに何か別の景があることを想起させ、景に奥行きを与えます。続いて歩を進め、松の大木を通り過ぎると突如として明るくなり、池中に浮かぶ大きな築山に植わる優雅な枝ぶりの松がいくつか姿をあらわします。その景を横目に更に先へ行きますと、漆黒の林間の下に二之丸庭園の主景ともいえる滝石組みから流水が滔々と湧き出る姿を目の当たりにすることができます。滝から流れ出た水面には、大振りな石組みの力強さがくっきりと映り込みます。

通常庭の見方は、昼間ですと一定の知識と経験がなければ分かりにくいものです。今回の夜間公開では、どなたでも庭の見方に気付きやすくなるように光の演出を工夫しております。

文筆：文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

文化財保護技師（名勝担当） 今江秀史（いまえひでふみ）